

①不明熱+肝出血で発症した結節性多発動脈炎の一例

肝出血時の血管造影で肝動脈、上腸間膜動脈に径不整、微小動脈瘤の多発がみられ、結節性多発動脈炎の診断に寄与した。比較的稀な症例と考えられたため画像を供覧した。

②盲腸の憩室出血に対するTAEで盲腸壊死をきたした一例

術前CTで出血源として同定できた枝にマイクロカテーテルを進めたが活動性出血の所見はみられず、ごく少量のゼラチンスポンジを前盲腸動脈と考えられる動脈から注入したところextravasationが出現したためさらに責任血管をさらに選択的にマイクロコイルで2本塞栓した。術後発熱が遷延し、CTで塞栓部の壁内ガスがみられており盲腸壊死と考えられた。手術は要せず経過観察のみで改善した。